

団体名 <b>糸満市立糸満中学校</b>	連絡先 TEL: <b>098-994-2030</b> Eメール: <b>itocyu@itomanc.city.itoman.okinawa.jp</b>
-------------------------	--

## 1 実践事項 ( ② )

### タイトル: 「 学びの質を高める共通実践事項 」

## 2 実践内容

### (1) 方策1 日常化する【質的授業改善】

#### ①学習リーダーを中心とした「座席配置の工夫」

- ・リーダーを中心にグループ学習や話し合い活動ができる座席配置を、担任と学級役員で決定し、学び合い高め合う授業づくりを推進する。

#### ②授業と連携した宿題の実施

- ・曜日で教科を指定し、実施する。(月:国語 火:社会 水:英語 木:理科 金:数学)
- ・授業の補充問題や導入問題などを取り入れた宿題を、教科担当が作成する。

#### ③「1人1授業3参観」「糸満中学校独自の授業参観シート」による公開授業の実践

### (2) 方策2 そろえる【組織的共通実践】

#### ①「学習の規律10項目」の習慣化を図り学習を支える力を育成する。

- ・朝の会における唱和等を通して、「学習の規律10項目」の意識を高める。

#### 【糸満中学校 学習の規律10項目】

1 ベル前着席・・・<黙想>	2 授業の開始・・・<お願いします>
3 授業中の返事・音読・・・<しっかりと>	4 聴く姿勢・・・<耳・目・心で>
5 授業での学習活動・・・<はじめをつけて>	6 授業中の発言・発表・・・<大きな声で>
7 学び合い高め合う姿勢・・・<グループ学習>	8 認め合い支え合う姿勢・・・<ペア学習>
9 授業の終了・・・<ありがとうございました>	9 次の授業の準備・・・<忘れずに>

#### ②日常的な取組で学習を支える力を育成する。

- ・授業2分前着席、1分間黙想、聴く姿勢など学習規律の徹底を図る。
- ・本鈴と同時に授業開始、授業終了時間厳守を徹底する。
- ・学習支援員及び地域学力向上支援事業(ゆいまー教室)講師による補習指導、生徒一人一人への個別学習支援の充実を図る。
- ・各学期末の評価確定前に「手立て期間」を置き、補習や課題提出の呼びかけの取組を行う。

### (3) 方策3 支える【発達の支援】

#### ①1日の振り返りシートの活用(Google Formsを使う)

- ・帰りの会の前にGoogle Formsを使って1日の振り返りを行う。
- ・1日の授業を通して、どの教科を頑張りどの教科に課題があったかを振り返り、自学自習の計画を立てる。(自己調整力を高める)
- ・毎日の振り返りを蓄積し、学期末のキャリアパスポートの振り返りへと繋げ、「自立して学習することのできる生徒」の育成を目指す。

## ②「学級の日」の設定

- ・学期に1回、授業終了後20分間、生徒同士や教師と生徒の関わる時間を設ける。

取り組み例：(4月) 糸中フェスタに向けて作戦を立てる

(11月) 合唱コンクールに向けて、気持ちを高める

(2月) 1年の締めくくりで、学級での思い出作り

- ・「生徒が協力し、認め合い、励まし合う仲間づくり」、「生徒が主体的に学級づくりに参画する機会と自己決定できる」ことを図る。

## (4) 方策4 見通す【学校組織マネジメント】

### ①学力向上推進委員会(教科主任会・授業改善委員会)

- ・前年度から引き継がれた生徒の実態等を踏まえ、「校内学力向上推進計画」を企画し、提案。

### ②授業改善委員会

- ・学力向上推進の具体的な実践を推進させる。

### ③各教科会・各学年会

- ・学習状況の把握と授業改善の実践。

## (5) 方策5 つなぐ【学校連携・地域連携】

### ①学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の推進体制の構築と充実。

### ②地域行事への参加と伝統文化の継承(糸満ハーレー・糸満大綱引き)

- ・糸満ハーレー、糸満大綱引きの行事参加(全学年)

- ・「糸満ハーレー聖地巡礼ウォークラリー」の実施(1学年)

- ・糸満ハーレー行事委員会参与の与那嶺和直さんによる糸満ハーレーの講話(2学年)

- ・糸満大綱引き実行委員会副委員長の上原義隆さんによる糸満大綱引きの講話(1学年)

### ③海洋教育(海人科)として、糸満の海や環境について学習する際の地域人材の活用。

- ・神谷良昌氏によるジョン万次郎講演会(2学年)

- ・美々ビーチのビーチクリーン及び糸満造船場の見学(1学年)

- ・地域の防災減災教育(海洋災害等における人命救助体験及び講話)(3学年)

### ④地域と連携した、PBL授業(課題解決学習)(1学年)

## 3 説明資料

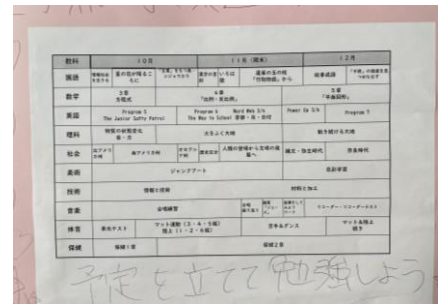
### 【学習リーダーを中心とした 「座席配置の工夫」】

- ・ペア学習やグループ学習を通して、学び合い高め合う授業作りの推進。



【授業と連動した宿題の提供と  
各教科の授業進度の提示】

- ・「自立して学習することのできる生徒」の育成を目指す。



【地域と連携した授業】

- ・1学年 PBL 授業において、企業からミッションが提示され課題解決・発表を行った。



- ・各行事委員会の方を招いて、地域行事を学ぶ講話を実施。  
左：糸満ハーレー講話(2年)  
右：糸満大綱引き講話(1年)



【海洋教育 (海人科)】 1 学年：ビーチクリーン 3 学年：防災キャンプ



【地域行事への参加と伝統文化の継承 (糸満ハーレー・糸満大綱引き)】

- ・上 2 枚：糸満ハーレー  
聖地巡礼ウォークラリー(1年)  
行事参加(全学年)
- ・下 3 枚：糸満大綱引き  
綱づくり(3年)  
行事参加(全学年)



## 4 成果

- 座席表を決める際、副担任や教科担当教諭の意見も取り入れるようにしたことで、より学び合いに適したグループ編成となり、学習規律の向上につながった。
- 帰りの会の前に Google Forms を使って一日の振り返りを行うことで、宿題や提出物、授業の取組の反省を意識して学習計画を立てる様子が見られるようになった。
  - 県生徒質問紙における「自分で計画を立てて勉強しているか」という質問において、「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と答えた生徒の割合
  - 1年 47.9%(6月)→54.7%(11月) 6.8ポイント上昇
  - 2年 47.5%(6月)→50.9%(11月) 3.4ポイント上昇
  - 3年 34.5%(6月)→47.7%(11月) 13.2ポイント上昇
- 今年度は4年ぶりに糸満ハーレーや糸満大綱引きが開催され、多くの生徒が行事に参加し、地域とのつながりを持つことができた。

## 5 課題

- 「学習の規律10項目」の実践において、教師の声掛けによる実践が多く見られたので、生徒主体で実践できる取組を考える必要がある。
- 校内研修において、「1公開授業」の取組は行えているが、生徒対応や補欠授業の対応等が多く、「3参観」の取組が不十分であった。授業改善委員会において、取り組み方の改善を図る必要がある。